

町の財政状況

昭和 46 年度の決算

昭和四十六年度の一般会計及び特別会計は五月三十一日をもって出納を閉鎖し、決算の調整を行なった結果、その概要は次のとおりです。

一、一般会計

積極的な事業投資

建設事業に二億四千万余、昭和四十六年度は、当初四億三千二百四十二万四千円の規模であったが、その後八回の補正により最終予算は、五億六千九百一十千円となりました。これに対し収支決算の規模は才入総額で、五億九千八百五十八万一千円、前年より十六・一%増、才出で五億七千九百七十七万七千円（前年度繰越明許額三千六百万八千円を含む）前年より十九・九%増で実質収支千八百八十七万四千円の黒字決算となりました。

2表はこの五年間の財政規模の推移を表したのですがこのグラフからも年々決算規模が増大していく様子をうかがい知ることが出来ます。このように才入、才出ともに大巾な伸びを示している背景には、積極的に進められた事業投資の増と人件費等の増が主な原因となっております。

才入

昭和四十六年度才入決算額は、五億九千八百五十八万一千円です。この主なものは、地方交付税二億一千九百一十二万五千円（構成比三十六・六%）をはじめとして町税一億三千三百五十六千円（二十二・二%）、国県支出金七千五百七十四万五千円（十二・六%）、地方債八千三百一十万円（十三・九%）です。前年度に比べ著しく増加しているものに広域市町村圏、或いは組合立消防加入等に伴う地方交付税の伸びが特筆されます。また町税についても、ドル防衛政策の影響により法人税においては若干鈍化しつつも、総じて順調な伸びを示しました。

税負担の状況

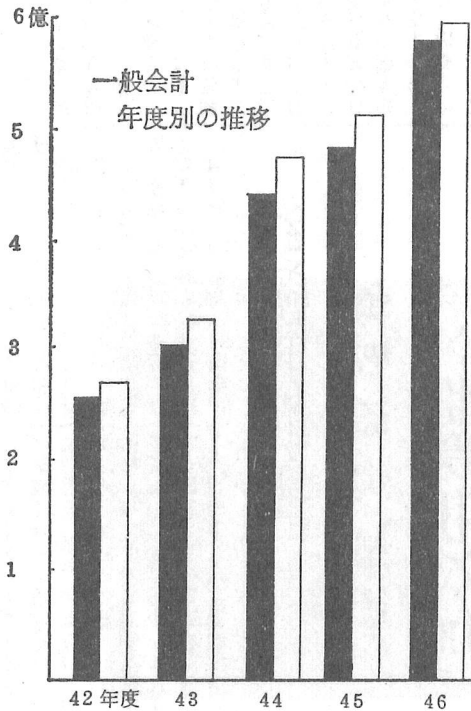
町財政のうえで比重が高く町民の皆さんに負担していただいてはいる税負担の状況は3表のとおりです。住民一人当たりの税負担の状況は、一万四千四百円、また一世帯当たりでみると五万八千四百六円の税負担となっております。

() は昭和四十五年

一般会計

歳入決算高	598,581千円
歳出決算高	579,707
差引残高	18,874

2表 年度別決算の推移



1表

